阪神淡路から10年めの節目に

阪神淡路大震災から10年

1月17日に、阪神淡路大震災から10年の節目を迎えました。大震災から2年後に、それを契機に高まった防災意識から池袋本町では防災生活圏促進事業が始まりました。

その事業が10年目の今年終了することに時の流れを感じます。この10年間の事業により、地区では少しずつ安全性が高まってきたことは間違いありません。しかし同時に10年という歳月は、最初の危機感が薄れてしまう時間でもあります。区の財政的な事情もあり、思うように整備が進まないまちづくりの課題も沢山残されています。

この防災まちづくりニュースでは、阪神淡路大震災を忘れないように毎年1月17日に防災特集をお届けしてきました。10年前に感じた危機感を思い出して、地区の防災まちづくりに取り組む力にしたいからです。

ところが大地は、思わぬ形で北と南から、地震の恐ろしさを私たちに再び教えてくれました。

新潟県中越地震とスマトラ沖地震

10月23日に発生した新潟県中越地震は、改めて地震の力のすさまじさを見せつけました。大都会が被害を受けた神戸とは違って、別の様相の被害が起こりうることが判りました。また、神戸の教訓が生かされた部分もあれば、相変わらずそのままという課題もはっきりしました。新潟県中越地震が起こってから早くも3ヶ月になろうとしています。現地では本格的な冬を迎え、被災された方々の厳しい生活が続いています。

一方、12月26日には、インドネシアのスマトラ沖でマグニチュード9.0という途方もない大地震が発生しました。震源に近いところでは家屋が倒壊し、また離れた所でも津波によって15万人以上の人命が失われました。

地震のたびに繰り返されることは、地震は弱いところに被害をもたらすということです。それは地盤や建物もそうですが、被災された方々についても言えます。その弱い部分を強くするということが、なかなか進みません。インド洋では情報の空白が被害を拡大してしまいました。

危険度が高まる東京

そんな折、国の中央防災会議では、首都圏の直下型地震の被害想定を発表しました。

東京ではこれまで繰り返し大きな地震に見舞われてきました。最も大きな被害を受けたのは関東大震災です。その再来を危ぶむ声もあります。しかし研究が進むにつれ、地震にはいくつかのタイプがあることが判ってきました。関東大震災を引き起こした地震は、海洋型の地震に分類されます。これは、今、発生が危ぶまれている東海地震、東南海地震、南海地震と同じ種類の地震で、プレートの境界で起きる大規模な地震です。研究によると、関東大震災の再来はもう少し先になりそうです。

しかし、東京では海洋型地震の他にも直下型地震が繰り返し起こっています。江戸時代には東京湾北部で安政地震が起こり大きな被害をもたらしています。

阪神淡路大震災も新潟県中越地震も直下型の地震です。その特徴は、海洋型地震に比べて被害が及ぶ範囲は狭いものの、震度6強や7の激しい揺れによって局所的に大きな被害が出ることです。この首都圏の直下型地震は、いつ起こってもおかしくないと言われています。地震に対する備えを改めて行うようにという警鐘が鳴らされています。

この3匹の招き猫は、新潟県中越地震の被災地で配られているステッカーです。現地を訪れた方がもらってきてくださいました。ほのぼのとした絵の中に、希望を捨てないで一緒に頑張ろうという想いが伝わってきます。

新聞に被災地でおにぎりとカーネーションを配った方のお話が載っていました。おにぎりを配っても表情を変えない被災者の人たちが、カーネーションを手渡すと笑顔を見せてくれたと紹介されていました。今、被災地で求められているのは心の温かさなのかもしれません。

人ごとではない……首都直下型地震の被害想定

豊島区でも震度6強

中央防災会議では、首都圏で発生することが想定される8種類の直下型地震が起こった場合、時間や気候など様々な条件における被害を想定しました。そのうち、被害が最も大きくなると思われる東京湾北部で地震が起こった場合、東京都では震度6強、地盤の悪い所では震度7の揺れになるとしています。

豊島区を見てみると、震度7の想定となっている所はないものの、震度6強の揺れになると想定されています。震度6強とは、今回の新潟県中越地震でも記録された揺れ。家屋の倒壊や火災の発生などの可能性がある揺れです。

高い火災の危険度

被害想定によると最も被害の大きなケースでは東京都で53万棟の建物が被害を受けるとされています。その内訳は、火災が41万棟、揺れによる被害が11万棟などとなっています。池袋本町では揺れによる被害もさることながら、火災による被害が大きいことが示されています。

池袋本町でも

地震による死者数は、東京都では7800人と想定されています。火災による死者が最も多く4700人、次いで建物倒壊によって2200人という結果となっています。

今回の被害想定では、建物の建替えによって街は少しずつ燃えにくくなっているとは言え、まだまだ東京では火災の危険が高いことが改めて示されました。東京全体でみると、23区西部の環状6号線から7号線にかけて危険な市街地が連なっています。池袋本町地区もその危険な市街地に隣接しており、安心することはできません。しかも、危険度の高い地区の方向は広域避難場所のある方向。地震の時に逃げることができるか心配です。やはり逃げなくてもよいまちづくりの必要性が痛感されます。

そのとき私は

新潟県中越地震を対岸の火事とは見ずに、自分の身に起こったらと考えることは、普段の防災対策にも役立ちそうです。その時に何を感じたかを、現地と池袋本町でインタビューしてみました。

被災地から

●日頃からの防災訓練の大切さが身にしみました。私は揺れを感じた瞬間、家の外に飛び出しました。少し揺れがおさまったとき、足の冷たさを感じ、裸足で飛び出したことに気が付きました。玄関に戻ってみると長靴やスニーカー、サンダルなどがありました。その時は外に出ることに夢中で、目に入らなかったんですね。（Yさん）

●ご近所の方々や、お友達って大切ですね。私は75歳の一人暮らしです。日頃からご近所の皆さんにはお世話になっています。このたびはほんとにご近所のみなさんに助けられました。家の中にいるのが怖くて、外に出ると「こっち、こっち」と声をかけてくれたのはお隣の奥さんです。それ以来ずっとお隣の家族と一緒に避難所で暮らしています。（Wさん）

●私が住んでいるところは、中心地から30kmしか離れていない日本一の豪雪地帯。日も沈みあたりはどんどん暗くなっていきます。家の中には誰もいない。寒くても表の戸は開け放していました。そんな時です。「○○さーん大丈夫かァ！」という聞き覚えのある声！その時のうれしさは一生忘れません。（長野県Sさん）

●ズー……「？」。グラグラッ！「これは大きい！」「やっぱりきた？！」これがはじめに感じたことです。部屋を見回し、ガスは火がついていない事を確認。次は2匹の老猫にリードをつけ、片手で抱きかかえながらテレビをつけて、2階のベランダのガラス戸を開けました。これが直後の行動です。この流れはいつものことですが、これがいつも的確かどうかわかりませんね。（Tさん）

本町では

●私は家で夕飯の支度にとりかかろうとしていました。火を付けようとしていた矢先でした。地震の時にはすぐ火を消すとは、頭で判っていますが、とっさの時にできるかどうか。まして震度6とか7になったら、どうなるんでしょうか。（Nさん）

●新潟に親戚がいるので、大きな地震と聞いた時にはビックリ。すぐに電話をかけてみましたが、なかなかつながらず、ますます心配になってしまいました。（Wさん）

●その時はサウナに入っていました。揺れがそれほどでもなかったので誰も慌てる人はいませんでした。しかし、もし扉が開かなくなったら、もし、高温の機械が倒れてきたらと考えるととても怖いです。どこにいても逃げ道だけは確認しないといけないと思いました（Oさん）

●うちには寝たきりの年寄りがいるので、地震の時にはとても心配です。どうやって避難させてよいか、どこに行ったらよいか、まったく見当がつきません。（Sさん）

●その時は、子供が出かけていました。もし大きな地震があったら別れ別れになってしまいますね。主人も仕事でいないことが多いので、連絡が取れなくなるかもしれません。携帯電話も使えなくなるそうですから、どうやって連絡を取ったらよいのでしょう。（Tさん）

●私の自宅は埼玉です。地震が起こり電車が止まったらったら家に帰るには歩いて行くしかありません。普通に歩いても2時間はかかりますが、地震で被害が出るともっとかかるでしょうね。荒川の橋が落ちたら帰れないかもしれません。（Mさん）

●テレビを見ていたらグラグラと来て、すぐに速報が出たので様子が判り安心しました。それが自分の住む所で起きたらどうなるんでしょうか。ニュースを見る余裕もないでしょうし、そもそも電気が消えてテレビを見ることもできなくなるかもしれません。（Aさん）